

宮沢 モリエ

(大阪青山短大)

目的 住宅の窓は眺望、採光、換気、通風等の役割をもつ。窓の位置や周囲の環境によっては同一の住宅であっても同じ効果をもたらすとはいえないであろう。そこで、住宅、特に寝室の窓の役割を知るために短期大学生を対象にアンケート調査による分析を行った。

調査方法 アンケート調査は、1995年に主として近畿地方在住の短期大学生を対象に夏休みあけに自宅の状況を思いだして記入をしてもらい、有効票 87票を得た。調査項目は住宅周辺的环境や寝室環境、風通し、窓の位置や種類、その使用状況等である。

結果 住宅形態は戸建て7割、集合住宅が3割である。周辺環境としては郊外に住んでいる者が6割を占め、市街地に住むのは3割であった。窓は両開き窓が多く、部屋の入口の正面に窓がある者が多い。窓の開放では昼間に「掃除」や「換気」時が主であり、夜間はエアコン使用のため閉める者が多い。寝室にエアコンがある者は約6割であり、エアコンを使用しないと「かなり過ごしにくい」、「少々過ごしにくい」とするものが非常に多く、窓の開放については風向きによっては入るとする者が6割を占め、その効果では「少々過ごしやすくなる」者が殆どである。風通しについては周囲環境の影響は受けていない者が多い。窓の目的としては換気、風通しや採光を中心に考えている。理想的な風の取り入れ方としては昼、夕方から夜及び睡眠中に関わらず窓から取り入れたいと考えている者が最も多く、エアコン使用による窓閉鎖が多い現状とは異なっている。